

パリで世界規模の農業見本市が今年も開幕



2月23日（土）から3月3日（日）まで、国際農業見本市（Salon International de l'Agriculture）が、パリのポルト・ド・ヴィルサイユ（Paris expo Porte de Versailles）で開催されます。

今年で56回目、世界最大規模の農業見本市

農業大国フランスが誇るこの見本市は、今年で56回を迎えます。今回のテーマは"Des femmes, des hommes, des talents"（女性、男性、才能）。

開催期間中は特産品の紹介やアトリエが開かれ、食品の試食も行われます。目玉のイベントは、

毎年恒例の家畜や食品・ワインなどのコンテストです。

出展は世界中から

この見本市には、約1000の出展者（exposants）に加え、約1400名の飼育関係者（éleveurs）と2845頭の動物が世界22か国から集まります。

特にフランスの地方や海外県からの参加も多く、各地方の伝統的な食材や食品、名産品などが紹介されます。

一般入場も可能

入場チケットを14ユーロ（約1700円、6歳～学生は半額、6歳以下は無料）で購入すれば、業界の関係者ではない一般市民も入場できます。

フランス全土の食材を試食したり、動物の飼育の様子を見学することなどができ、家族で楽しめる人気イベントです。

農業に関するイメージ調査

見本市の開幕に合わせて行われた調査では、回答者の93%が「農業は有益（utile）」だと考えていることが分かりました。

この調査はコンサルティング事業のOdoxa-Dentsu Consulting社によって、2019年2月20日と21日に18歳以上のフランス人1004名を対象に行われたものです。

農家は熱心で身近な存在

調査によると、フランスの農業に対するイメージは「熱心である（courageux）」「情熱がある（passionné）」「感じが良い（sympathique）」のように肯定的です。

また、農業はフランス人にとって身近な産業でもあるようです。アンケートでは10人中7人が「

農家は身近な存在だ」と回答し、「農家は古臭い」と回答したのは10人中3人とどまりました。

EUの農業政策に対しては批判的

同じアンケートにおけるEUの農業政策に関する質問では、フランス人の否定的な態度が明らかになりました。

71%の回答者が、フランスの農業や農家にとってEUの政策は消極的な役割を果たしていると考えているのです。この見方は特に地方で強い傾向にあります。

また、調査参加者の4分の3が、EUの政策はフランスの農業の重荷になっていると回答しています。国内では農業への評価が肯定的なだけに、国外との関係においては慎重な姿勢が表れています。

見本市をきっかけに、フランスや日本の農業を見直してみましよう。

執筆あお

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

